

被災地への支援物資の輸送 報告書

平成23年4月11日(月)～12日(火)

企画部 企画課

住民部 地域課

【目的】 東日本大震災によって被災した地域の復興に役立てるため、瑞穂町が保有する災害物資の一部等を直接輸送する。

1 物資・事前準備等

【支援物資の主なもの（詳細は別紙のとおり）】

品名	数量
飲料水（1本2リットル入） 「町備蓄品」	64箱×6本＝384本（2L） 10箱×24本＝240本（500ml）
クラッカー 「町備蓄品」	66箱×70食＝4,620食
土のう袋「町備蓄品」	200枚
住民・企業等からの支援物資	バスタオル、衣類、ブルーシート、作業服、紙おむつ、スニーカー、粉ミルク 他

【輸送先】

町の提供可能物資と被災地のニーズが合致する

「宮城県多賀城市」として

瑞穂町より約430km

- * 事前に市・総務課伊藤氏に地域課長が連絡調整済み。しかし、7日（木）深夜発生した余震により、それ以降連絡はつかなかった。



【輸送手段と従事した職員】

救援物資の容量から、公用車（災害対策車）では積載できないため、レンタカー（2トンロングトラック、アルミ箱車）を借り上げ、積載制限重量まで物資を積載した。

大井住民部地域課長および高橋企画部企画課企画係長、岡部国際化・協働係主任の計3名が輸送した。

【経費】

89,061 円		
(内訳) 燃料費	軽油 140 リットル	18,518 円
自動車借上料	2 トンロングトラック	39,637 円
旅費	日当 1,600 円×3 名、食卓料 4,600 円	6,200 円
宿泊料	6,110 円×3 名(福島県内ビジネスホテル)	18,330 円
消耗品等	軍手、革手袋、車載用変圧器	6,376 円

【準備品(通常の旅行具は省略し、災害対策に特化したものを抜粋)】

- ・ヘルメット ・防災服、ブーツ ・災害派遣等従事車両証明書(高速道路無料通行証) ・長靴 ・ゴム手袋 ・飲料水 ・車載用電源(携帯等充電用)
 - ・消毒液 ・防護服 ・マスク ・保存食 ・ポリタンク簡易シャワー(手洗い等) ・消毒用石鹸 ・カーナビ ・携帯ラジオ ・予備電池 ・懐中電灯
- * 準備にあたり、不足品は各部(局)の全面的な協力により、十分な装備が整った。余震による停電・断水に備えたが、野営は想定していない。

【その他】

- ・個人・企業からの提供物資については、事前にダンボール箱に種別ごとに梱包し、内容物・数量・提供者(東京都瑞穂町)の表示を行った。
- ・物資の積み込みは、8日(金)に企画課、地域課職員が実施した。
- ・議員各位・マスコミには、8日(金)「東日本大震災に関する報告」を実施した。
- ・車両には災害対策車の表示を行った。

2 往路(実行程詳細は別紙参照のこと、震災関連に特化したものを抜粋)

【高速道路状況】

- ・入間ICより一般レーンで流入。新座料金所、大泉料金所、仙台港北料金所で「災害派遣等従事車両証明書」を提示し、スムーズに無料で通過できた。非常に協力的な対応と、慰労の言葉が必ずあった。
- ・東北自動車道路 - 栃木県までは通行に支障がない。
- ・東北自動車道 - 福島県に入ったあたりから、高速道路としては非常に大きな段差がある。道路継ぎ目に生じた段差を応急的に工事してあるが、段差の解消には至っていない。お尻が大きく跳ねるほどの衝撃で、速度は60km程度になる。所々、車線規制をして緊急補修工事が行われている。
- ・村田JCTより仙台東部道路に入るが、道路の段差も少なく被災地といった状況も街並みには感じられない。しかし、平泉ICを過ぎたところから一変し、道路段差が激しくなる。
- ・仙台東部道路は、300mおき程度に非常に大きな段差があり、50km程度以上の速度は出せない。路肩の崩落なども多く発生している。

【給油・休憩等】

- ・ 東北道 - 上河内 S A (福島県)、国見 S A (宮城県) で給油を実施。大きな混雑はないが、災害対策の応援車両の給油がほとんどである。
- ・ 国見 S A (宮城県) で昼食をとったが、メニューが 1 / 3 程度に限定されている。しかし、十分なバラエティーがそろっていた。客は自衛官、工事従事者、自治体職員が大半を占めていた。その他は通常通りだが、タバコは販売していない。被災地のトイレ状況がわからないためか、男性用トイレが非常に混雑していた。

【高速道路沿道の被災状況等】

- ・ 福島県内に入ると、民家屋根にブルーシートが散見される。北上するにつれ、その数は増す。瓦屋根の比較的古い民家に多いと感じた。
- ・ 村田 J C T より仙台東部道路に入るが、景色が一変する。もともと田園と思われる土地には、海水と思われる水、自動車、ガレキが散乱し、津波の被害地域に入ったことが明確にわかった。
- ・ 仙台東部道路は海岸に平行して走る道路で、今行程では海側を右手に、内陸を左手に走行した。本道路は盛土構造で道路が高所となり、防潮壁の役割をしたことがわかる。道路右側(海側)はガレキ・車・海水に埋め尽くされているが、左側(内陸側)は大きな被害が見られない。

3 救援物資搬入 - 宮城県多賀城市

宮城県のほぼ中央に位置する市、仙台市のベッドタウンの中では、同市に隣接する名取市に次ぐ人口を有し、増加傾向にある。

国道 45 号沿いに発展したため、商店はロードサイド店が多く、市の中心部が存在しないという特徴を持つ。

面積 19.64 平方 km 人口 62,881 人 (2011.2.1)

~ ウィキペディアより抜粋 ~

国道 45 号を北上し市役所へ向かった。海岸に平行して走る片側 2 車線道路で、沿道には大型飲食店、自動車ディーラー、大型商業施設などがある。瑞穂町の新青梅街道に似たイメージの規模。市役所は国道 45 号から内陸に入った高台に位置する。また、市役所から 300m ほどさらに高台に、避難所となっている「文化センター」が位置する。市役所近隣には自衛隊が大規模に展開し、入浴・給湯場所が設置されている。

【市内の状況】

- ・ 信号機は 1 / 5 程度しか点灯していない。停電は発生していないことから、海水につかり故障したものと思われる。要所の交差点は点灯しており、交通の大きな混乱はない。

- ・ 大きな道路からはガレキ・車等は撤去されており、片側 2 車線が全線通行可能であった。ところどころ路肩の崩落等があるが、通行に支障はない。
- ・ 交通量は少ない。
- ・ 国道 4 5 号沿線商業施設の壁の水跡から、1 2 0 cm 程度の浸水があったものと想像する。営業している店舗は「営業中」との表示をしているが、営業している店舗は 1 / 2 0 以下程度。店舗に人の気配はなく、復興に向けての動きは感じない。
- ・ 国道より市役所へ向かうおそらく市道（市役所まで上り坂）は、ところどころ陥没等の被害が見受けられるが、交通に支障はない。
- ・ 自転車、徒歩での移動が多くなっていると感じた。（平時がわからないが）また、無理な道路横断が多い。
- ・ 市役所近隣の商店（高台）は、高台に上がれば上がるほど営業している割合が高くなる。品揃え等は不明である。
- ・ 途中、コンビニエンスストアに寄るが、商品は 1 / 5 程度しか陳列されていない。しかし、客は多い。
- ・ 被害を免れた大型ホームセンター、スーパーも営業は 1 5 時頃終了している。

【物資搬入・多賀城市役所】

- ・ 市役所入り口は、交通整理要員が常駐し、一般車両等の進入はできない。市役所来客駐車場及び公用車駐車場が救援物資ストックヤードとなっている。面積はおおよそ瑞穂町役場前駐車場の 5 倍程度で、救援物資が野積みとなっている。
- ・ 市役所玄関は、震災情報の張り紙、搜索の張り紙などがあらゆる壁面に張ってある。また、職員・住民・自衛官・他自治体職員等があわただしく出入りしている。
- ・ 総合受付は機能しており、事前に連絡できていた総務課伊藤氏（女性）に取り次ぎをお願いし、間もなく伊藤氏が総合受付に来た。
- ・ 救援物資のリストがあると、とのことで、用意してきた救援物資のリストを示すと、大変助かるとのことであった。直ぐにそのリストを物資受け入れ担当にもって行き、トラックの荷降ろし場所が案内された。
- ・ 荷降ろし場所には、2 0 代前半の男性（職員かボランティアかは不明）が 1 0 人程度待っており、慣れた作業で荷降ろしを手伝っていただいた。皆口々に感謝の言葉を我々に言ってくれる。おおよそ 1 0 分程度で全ての荷降ろしが完了した。
- ・ 物資はひとまとめに降ろし、その後に品目ごとに置き場所に分けるようである。
- ・ 他の救援物資トラックも来るため、直ぐにその場所から移動した。伊藤氏に名刺及び瑞穂町の案内を渡し、今後もお手伝いできることがあれば、連絡が欲しい旨伝えた。
- ・ 伊藤氏からは「遠路お届けいただいて感謝する、預かった物資は必要とする方にお届けする、復路も気をつけていただきたい」との言葉をいただいた。非常に多忙である様子が見て取れたため、我々もそれ以上の情報は聞き出せ

なかった。

【東京都理容生活衛生同業組合西多摩支部との情報交換】

- ・ 上記組合小倉氏から連絡があり、多賀城市役所隣接の市文化センター（避難所となっている）で待ち合わせ情報交換することとなった。
- ・ 理容組合は多賀城市と塩竈市に別れ、散髪のボランティアを実施し、被災者に非常に喜ばれたとのこと。
- ・ 持参した子どもの駄菓子やおもちゃが大人気だったとのこと。
- ・ 参加者からは再度、訪問したいとの意見が多く聞かれた。
- ・ 出発時刻が近づいたため、30分程度の情報交換となった。

【市文化センター(避難所)視察】

- ・ 建物内に入ると、まず生活臭が強く感じられた。また、照明も暗くどんよりした空気を感ずる。
- ・ センター内のホール、廊下等は共用スペースとなっている。自衛隊、自治体職員はせわしなく活動しているが、避難者はほとんど活動していない。
- ・ 生活環境域は関係者以外立ち入り禁止で、我々はいれなかったが、外からの様子ではいわゆる「雑魚寝」状態である。
- ・ 共用スペースにもダンボールで住居スペースを作っている方も多く見受けられた。プライバシーの確保目的で、ダンボールで家状に細工している方も多かった。
- ・ 飲料水は共用スペースで配給している。トイレは外の仮設トイレを使っている。トイレは汚れており、押し踏みポンプを操作しても水は流れず、汚物があふれている状態。
- ・ 手洗いは「飲用不可」のタンク、石鹸、消毒液が備えてある。
- ・ 入浴は自衛隊設置の仮設風呂が利用できるようだ。
- ・ 避難者は疲労しきった様子で、我々に関心を示すことはない。走り回っている子どもがいたが、高齢者がそれを注意する場面も見られた。
- ・ このような雰囲気から、写真撮影や避難者への聞き取りなどは自粛した。

4 被害状況視察 - 七ヶ浜町

宮城県の中部に位置し、松島丘陵が仙台湾に突き出た七ヶ浜半島を町域とする町。日本三景・松島の南部を形成する。東北地方の市町村の中で最小の面積である。

今回の震災で、町の面積の1/4が浸水した。

面積 13.27 平方km 人口 20,377人 (2011.2.1)

～ ウィキペディアより抜粋 ～

【七ヶ浜町・沿岸部視察】

- ・ 七ヶ浜町に向かい、まず東宮浜（海岸沿い）に辿り着き、視察を開始した。この港では、数多くの漁船が座礁しており、電柱も大きく曲がっていたが、半島

の影であることから津波で家屋が流されるなどの被害はなかった。

- ・ 14時46分 震災発生から一ヶ月のこの時刻に、七ヶ浜町防災無線から「黙禱」の実施が放送され、我々も車から降り、海沿いの堤防で黙禱をささげた。
- ・ 多くの民家があったであろう海岸沿いの視察をした。そのエリアは高さ数メートルの防砂林で囲まれてはいたものの、津波が乗り越え、集落全体を根こそぎ奪い去ってしまっていた。
- ・ 家は全壊し、瓦礫の山と化し、車は見るも無残な姿で放置されていた。わずかに残った家屋も2階まで水が入り込んだ痕跡があることから、少なくとも6メートル以上の津波が押し寄せたことがわかる。
- ・ 自衛隊がテントを張り、数人の自衛隊員が行方不明者の捜索に現在もあたっていた。これらのことから、このあたりには、まだ多くの犠牲者が存在していることを実感した。そしておそらく子供が亡くなった場所にたくさんの人形が手向けられている光景が印象に残った。
- ・ しばらく視察を続けていると、数人の住民が瓦礫の中を歩いており、自分の家があった場所なのだろうか、何かを探している光景もあった。我々は車から降りることはなかったが、開けた車の窓からは、潮水と泥と瓦礫の混じった異様な臭気が漂っていた。
- ・ 七ヶ浜町は地図で見ると、全体が海で囲まれた半島なのだが、一周したかぎり、高台以外は津波の被害で泥と瓦礫しかない状態であるように思えた。
- ・ 七ヶ浜町役場へ向かうことにし、その途中で30世帯分くらいの建築途中の仮設住宅を見ることができた。またおそらく避難所となっているであろう学校を車内から見たが、視察はできなかった。自衛隊のテントがあったので、炊き出しなど、支援の手は入っているように思えた。

【七ヶ浜町役場・視察】

- ・ 役場は半島の最も高い場所にあり、津波の被害は受けてはいなかった。また建物も耐震工事が施されており、被害は少ないように見受けられた。電気は通っていた。
- ・ 災害対策本部が置かれている総務課を訪問し、総務課主幹兼総務係長高橋勉氏と面会し、名刺交換を行った。5分程の短い時間ではあったが、七ヶ浜では、電話回線が遮断され、外部と電話で通信できない状態であることを知らされた。
- ・ 今後瑞穂町にできることがあったら協力したい旨を伝え、建物を出た。役場建物を見渡した限り、多賀城市役所のように、物資のストックヤードはなく、電話回線が使えず、外への情報発信が出来ない自治体との違いを感じた。
- ・ 町の防災無線で、下水の使用を極力控えるようにとの放送があり、下水処理施設も機能していない事実がわかった。
- ・ 町の給水車が住民に水を配布している現場をみて、上水道も通っていないことがわかった。

5 移動・復路

【宿泊地(福島市)まで移動】

- ・ 仙台港北 IC から宿泊先の福島県福島市に向けて出発。17時16分宮城県白石市近辺を走行中、福島県東部を震源とするマグニチュード7.1の地震発生。走行中であったため、揺れは感じなかったが、車内に響く携帯電話の緊急地震速報やラジオのNHK放送で、福島市で震度6弱の揺れであることを確認した。
- ・ 上記地震発生直後、瑞穂町役場との通信を試みたが、携帯電話の発信制限が掛かり、繋がりがづらい状況であった。災害伝言メールで全員無事を報告した。数分後ようやく繋がった電話で、改めて3人の無事を電話で報告した。
- ・ 東北道が通行止めとなり、国見 IC を強制降車。国道4号を南下し福島県福島市を目指したが、道路は大渋滞し、走行中何度も余震に見舞われた。停電は起きていなかった。
- ・ 福島市内の状況を車内から見ると、高速道路からはわからなかったが、瓦屋根が落下しブルーシートで覆われている家屋が多いことがわかった。また、福島テレビ放送局の目の前を通過したが、多くの窓ガラスの破損が見てとれた。
- ・ 19時10分 ビジネスホテル到着(福島県福島市栄町 2-36)
- ・ ホテルでも大きな揺れがあったようで、エレベーターは使用できない状態で、階段を使い部屋に入った。チェックイン後、福島駅前夕食を取っていた最中も、身体に感じる大きな余震は頻発していた。

【復路】

- ・ 朝刊やテレビ、インターネットを使い、昨日の余震の被害状況を確認。また、東北道の通行止めは解除されていることを確認した。
- ・ 朝食時、役場と調整し、復路の行程の確認を行った結果、また大きな余震が発生し、高速道路が通行止めとなるか分からない危険性があることから、当初予定していた二日目の被災地視察を断念し、直帰することとなった。
- ・ 高速道路の状況は往路と同じではあったが、昨日の余震の影響と思える新たな亀裂や遮音壁の倒壊も見てとれた。
- ・ 途中、休憩のため立ち寄ったサービスエリアでは、昨日の余震の影響で、ガスの使用は制限されており、飲食サービスは行われていなかった。
- ・ この日も、余震は続いており、緊急地震速報が頻繁に入ったため、急遽、東北道岩舟 JCT から北関東自動車道、高崎 JCT で関越自動車道に入り、瑞穂町役場を目指すことにした。
- ・ 15時42分 瑞穂町役場 到着
- ・ 職員出迎え。2日間の全走行距離は853.8km

東日本大震災救援物資一覧

救援物資名	数量	積荷(ダンボール)	
水	240本(520ml) 45本(500ml) 384本(2)	77箱	町備蓄品
クラッカー	4,620食	66箱	
土嚢袋	200枚	1箱	
粉ミルク	22缶(850g) 14箱(850g)	4箱	住民・企業等 からの支援物資
スティックミルク	16箱(24本)	2箱	
卵ボーロ	適量		
ゴム手袋	37双	1箱	
軍手	147双		
おむつ	Sサイズ 1袋 Mサイズ 2袋 Lサイズ 3袋	1箱	
バスタオル	600枚	10箱	
防寒着	6着	2箱	
作業着(上)	11着		
作業着(下)	8着		
靴	6足(25.5cm) 1足(23.5cm)	1箱	

宮城県多賀城市災害物資搬送 行程 4月11日(月)～12日(火)

日次	月日曜	発着地 / 滞在地名	発着 現地時間	移動手段	摘 要	食事
1	2011年 4/11(月)	瑞穂町 発 多賀城市役所 着 多賀城市役所 発 多賀城市文化センター 着 多賀城市文化センター 発 七ヶ浜町 着 七ヶ浜町役場 着 七ヶ浜町役場 発 ホ テ ル 着	05:30 06:00 12:53 13:20 13:30 14:10 14:40 15:30 15:50 19:10	トラック (レンタカー)	役場集合 役場出発 瑞穂町役場 入間 IC ~ (圏央道) ~ 鶴ヶ島 JCT ~ (関越道) ~ 大泉 JCT ~ (外環道) ~ 川口 JCT ~ (東北道) ~ 村田 JCT ~ (仙台南部道路) ~ 仙台若林 JCT ~ (仙台東部道路) ~ 仙台港北 IC ~ (一般道) 多賀城市役所 多賀城市役所到着 援助物資搬入 <視察> 多賀城市文化センター避難所視察 西多摩理容組合と情報交換 <視察> 七ヶ浜町(東宮浜地区・菖蒲田浜地区・汐見台南地区) 災害対策本部訪問 仙台港北 IC ~ (仙台東部道路) ~ 仙台若林 JCT ~ (仙台南部道路) ~ 村田 JCT ~ (東北道) ~ 国見 IC ~ (一般道) 福島市内 福島市内ビジネスホテル到着	昼：東北道 SA 夜：福島市内
2	4/12(火)	ホ テ ル 発 瑞穂町 着	09:30 15:42 17:15	トラック (レンタカー)	福島市内ビジネスホテル出発 福島西 IC ~ (東北道) ~ 岩舟 JCT ~ (北関東自動車道) ~ 高崎 JCT ~ (関越道) ~ 鶴ヶ島 JCT ~ (圏央道) ~ 入間 IC 瑞穂町役場 瑞穂町役場到着 解散	朝：ホテル 昼：北関東 SA